



↑ 魔除けのために玄関に飾られているバレン

← 白壁が美しい中島家住宅の前など広範囲に巡行する添田本町地区の山笠

↓ 夜の添田本町地区を練り歩く提灯山笠。昼間とはまったく趣が変わります



## 昼はバレン、夜は提灯が城下に揺れる 二つの顔をもつ添田本町の神幸祭

「ワッショ〜ワッショイ」の掛け声に合わせて、華やかな飾りをまとった山笠が、日田道の白壁の中を進みます。添田本町が「賑やかになる」神幸祭です。

添田本町地区の神幸祭は、彦山神幸祭と祇園祭の二つの流れをくむ祭りとして、毎年5月第2土・日曜で行われています。現在の神幸祭は、五穀豊穣を願う神幸祭に、疫病で亡くなった方への鎮魂と無病息災を祈念する祇園祭が一緒になったものです。昔は、上添田にある須佐神社から神輿が本町地区まで巡行し、それに山笠が連なりました。

祭りの主役は何と言っても美しい「花笠バレン」を垂らした山笠行列です。花笠バレンは、色染めした和紙を花形に切った「花切」を、色紙を巻きつけた5mほ

どの割竹に付け、稲穂に見立て山笠に垂らす花飾りです。

この花笠飾りを施された山笠は、夜になるとその姿が一変します。神幸祭両日の前夜には、同じ山笠に花笠バレンではなく、幻想的な光を放つ提灯が飾られ、街並みを練り歩きます。これこそ祇園祭の名残であり、夜は提灯で飾られた提灯山、昼間は花笠バレンの山笠に変身するという珍しい仕様になっています。

祭りが終わる頃、山笠に飾られたバレンを人々がもらって帰ります。輪っかにしたバレンを屋根の上に投げ上げて家守りとしたり、災い除けのため玄関先に飾る風習があるのです。日田道を歩くと今でもあちらこちらの玄関や軒先に花笠バレンの輪を見かけることができます。



# 日田道を歩く。

岩石山の麓に広がる添田本町を南北に貫く街道筋。小倉と天領日田とを結ぶ旧小倉街道、別名「日田道」と呼ばれる街道です。慶長7(1602)年、初代小倉藩主・細川忠興は「手永(てなが)」という行政統治制度を導入しました。田川郡には6つの手永が配置され、その一つを日田道筋にある添田に設けました。以来、この町は添田手永の中心地として栄えたのです。



← 添田本町(下町・町三)で使われていた山笠法被。